

令和4年度 第4回 都田南小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年 12月13日（火） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 都田南小学校 ふれあいルーム
- 3 出席委員 馬淵 信夫、山下 泰弘、神間 智博、石田 由紀子、牧田 景子
- 5 欠席委員 長谷川 卓人
- 6 オブザーバー 野中 諭（都田協働センター）
- 7 学校 鵜飼和生（校長）、大石智香子（教頭）、勝永昌宏（教務主任）、谷野文彦（CS担当教員）、服部美保（CSディレクター）
- 8 教育委員会 小川誠司（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 協議事項
 - （1）議長の選出について
 - （2）学校評価アンケートについて
 - （3）承認
- 11 会議録作成者 事務局 服部美保
- 12 会議記録

（1）議長の選出について

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、馬淵委員を議長に推挙する意見があり全員異議なくこれを承認した。

（2）学校評価アンケートについて

勝永教務主任から、11月に行った学校評価アンケートについて別紙資料に基づき説明があった。委員より以下の発言があった。

・集計結果の資料の字が小さくて見えづらい。もう少し大きくしてもらえると嬉しい（馬淵委員）

・教科担任制について。児童の学力を上げるために教科担任制が大切だと思う。来年の試みはどうか。（山下委員）

・先生の得意教科で担当できるようにしていく方針。先生の間で情報交換をするようにしていきたい。（勝永教務主任）

・小学校の先生は自分のクラスの子をしっかり見たいという気持ちが強いと思う。そのメリットはよく分かり、良い面は大切にしていきたい。しかし、中学校勤務の経験を踏まえると、先生たちの意識を「みんなで子供を育てる」という意識に変えていったほうが良いと思う。（校長）

・色々な先生が見てくれることで、子供たちは成長すると思う。（山下委員）

・社会は大きく変わってきている。今までのクラス担任制では、先生との相性が悪いと辛くてやっていけないような子もいた。自分の経験も含めて。教科担任制で色々な先生に褒めてもらえる場ができるという利点もある。自分のクラスをなんとかしたい

という考えから新たに意識を変えていったら良いと思う。(神間委員)

・教科担任制のメリットを感じていない先生は何をデメリットと感じるのか。(牧田委員)

・保護者との面談の時に、担任を持っていない教科について聞かれると即答できないことがある。職員の数や担当教科のバランスで得意でない教科を教えなければいけないこともある。(校長)

・何の教科の先生が少ないのか。(神間委員)

・音楽の先生が少ない。(勝永教務主任)

・教科担任制のメリットを感じられるようになるまでに時間がかかるのでは。学力が上がっている感触はあるか。(石田委員)

・国語の教科を2クラス見ているが、同じように指導をするので比較し辛い。(谷野教諭)

・この先生だとすごく分かりやすかったという声を子どもから聞いたことがある。(牧田委員)

・2、3年続けていくと先生自身の指導力が上がると考えられる。授業の準備や研究にかける時間も増やせる。(校長)

・配付資料の家庭学習の手引きについて。家庭学習に取り組むときの約束として、テレビを消し…とあるが今の子供たちはスマートフォンを持っている子が多いと聞く。それについて学校からの指導はあるのか。(石田委員)

・授業の中でインターネット検索することがあるので、全て悪いのではなく、何を調べるかが大切だと思っている。(教頭)

・高学年で自主学習の宿題が出されるが、自分で課題を見付けることが苦手で苦痛になっている子がいる。何をやれば良いか分からない子のためにプリントを用意して、持って行っていいよというような対応をしてくれると助かる。(牧田委員)

・学校のブログやホームページの閲覧頻度が低いのが残念。コロナ禍で保護者が来校する機会が少なく、先生の顔もよく分からないという声を聞く。さくら連絡網で必要な情報が送られてくるようになったので、ホームページを見に行く必要がなくなったように思う。先生がいま何に力を入れているのかを発信したりすると良いのでは。(牧田委員)

・保護者がわざわざ見に行きたくなくなるようなやり方をしないと難しい。そこへ誘導するようなやり方等。最近ホームページにアクセスしたのは、メールアドレスを調べる時くらい。(神間委員)

・学校のインスタグラムを作っているところもある。他県ではやっている。浜松市もっと柔軟に対応して欲しい。(牧田委員)

・さくら連絡網については保護者のほとんどの方が必ず見るようにしてくれている。ブログとさくら連絡網を上手く組み合わせていけたらと思う。(校長)

・さくら連絡網は校内向けの発信だが、ブログは全ての人に対しての発信、という違いがある。(教頭)

・さくら連絡網は校外からも発信できるのが良いところである。林間学校の時も撮った写真をタイムリーに発信することができた。ブログだと学校に戻ってきてからの発

信になってしまう。(校長)

・浜松市内の学校ホームページは今月中にシステムの変更をする予定。ブログの写真掲載については裁判に発展するようなケースもある。これから先、ホームページにはいじめ防止基本法方針など常に見られるものを載せ、さくら連絡網とのすみ分けをしていきたいと考えている。ホームページの編集作業に時間がかかり先生の授業が疎かになってはいけない。システムの変更により、自由度は低くなるが作業が楽になると考えている。(教育総務課小川氏)

・転校してくる子がどんな学校か知るツールとしても利用されているようだ。(校長)

・ホームページは学校の運営指針などを示すものということですね。(神間委員)

・システムの変更で自由度が低くなるとはどういうことか。(石田委員)

・各学校で独自に作るというのが難しくなるということ。どの学校も形式が同じになり、ホームページ上では公開しなければいけない内容を載せるという形になる。(教育総務課小川氏)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

司会から、今年の振り返りとして協議会の自己評価をしていただき、自己評価表を来年1月末までに学校へ返信していただくよう依頼をした。